

平成22年3月

平成22年度特別編入学試験合格者 各位

## 特別編入学生の修得単位の 認定について

電気通信大学教務課

### 単位認定制度について

合格者の皆さんには、既に高等専門学校(原則として4・5年次分)、短期大学又は大学において修得した授業科目(単位)がありますが、それらのうち、本学の授業科目と内容や単位数が近い科目については、「特別編入学生に対する単位認定基準」(P6～)に基づき、審査のうえ、本学における修得単位として認定し、卒業に必要な単位数に算入する制度です。

認定された科目の評価は「秀」、「優」、「良」、「可」ではなく「認」となります。

単位認定の申請に関しては、この冊子のほかに下記のことを同封しています。確認してください。

- ・「特別編入学生単位認定願(授業内容)」  
(内訳) 記入例、健康・スポーツ科学科目用、理工系教養科目用(各1枚)、言語文化科目Ⅰ用、同Ⅱ用、同演習用、専門基礎科目・数学用、同・情報用、同・物理用及び化学用、日本語・日本文化科目用(各2枚)、人文・社会科学科目用、専門共通科目用(各3枚)、学科専門科目用(7枚)  
※不足する場合はコピーをとってください。

・『平成20年度学修要覧』 1部

## 単位認定に必要な書類について

- (1) 「特別編入学生単位認定願(授業内容)」  
記入の際はP4, 5の「単位認定願の記入上の注意」を参照してください。
- (2) 本学入学前に在学していた高専、短大又は大学の成績証明書1通(科目名、単位数、授業時間数及び評価の記載のあるもの)
- (3) 高専、短大又は大学の授業案内(シラバス:必要箇所をコピーしたもの)

※必要に応じて教科書を請求することがあります。

### (提出)

3月26日(金)までに、郵送又は直接、教務課学部教務係2番窓口で提出してください。現在高専等に在学中の方は、最終の成績証明書が出た後、提出してください。

### 「特別編入学生単位認定願(授業内容)」について

この認定願により単位認定作業を行います。認定結果は特別編入学生オリエンテーション時に通知します。皆さんはその結果をもとに、さらに認定できる科目があるかどうかを認定担当教員と面談することになります。また、3月の時点で本学の科目で授業内容がわからない、適切な申請ではない場合については、この時期に変更・追加などの申請をすることができます。その結果、認定科目が確定したら、再度「特別編入学生単位認定願」(この用紙は入学後配布します)へ認定になった科目のみを記入し、提出していただきます。これをもって、正式の単位認定申請とします。

### 書類提出及び問い合わせ先

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

電気通信大学 学生部教務課学部教務係 担当:門田

TEL:042-443-5076(直通)

E-mail:kyomu-k@office.uec.ac.jp

## 「特別編入学生単位認定願(授業内容)」 記入上の注意

科目区分毎に単位認定方法が若干異なります。このことについてはP7以降にありますので、ここではその他の一般的な注意事項を述べておきます。

・ 本学電気通信学部の開講科目、卒業所要単位数等については、同封の『平成20年度学修要覧』を参照してください。認定の対象となる科目は、原則として所属学科で履修できる科目の範囲内です。

・ 「特別編入学生単位認定願(授業内容)」(以下「認定願」)に記入する際には、本学の個々の科目だけでなく、その科目区分についても知っておく必要があります。これも、詳しいことは『学修要覧』を参照していただきますが、おおまかに区分すると、下記ようになります。

(大区分) (単位認定のための科目区分)

### 総合文化科目

人文・社会科学科目  
言語文化科目Ⅰ  
(言語文化基礎科目Ⅰ・言語文化応用科目Ⅰ)  
言語文化科目Ⅱ  
(言語文化基礎科目Ⅱ・言語文化応用科目Ⅱ)  
言語文化演習科目  
健康・スポーツ科学科目  
理工系教養科目  
日本語・日本文化科目

### 専門科目

専門基礎科目・数学  
" " "・物理  
" " "・化学  
" " "・情報  
専門共通科目(夜間主コースのみ)  
学科専門科目(各学科別)

・ これらの科目区分毎に、それぞれの分野の担当教員が単位認定を行います。このため、単位認定の申請は、この区分ごとに別々の認定願に記入することになります。「認定願」の左上にその科目区分が記してあります)  
P7以降の各学科等別の単位認定方法も、基本的にこの区分に従って説明してあります。

・ 本学の科目と、同等の授業内容を有する高専等における修得科目とを対応させながら、認定願に記入します。記入例を参考にしてください。

- 本学の授業科目の具体的な内容は、本学のホームページに掲載されているシラバスを、参照してください。なお、シラバスを見る際には、各学科等で指定がなければ「入学年度」を平成20年度に変更してください。

URL <https://info.office.uec.ac.jp/jsp/nrm/sir/cur.jsp>

- ※上記のシラバスに掲載されていない科目につきましては平成20年度入学生用のシラバスを参照してください。

※ホームページを参照することができない方及び、シラバスの詳細等で分からない事がある場合には、P3の問い合わせ先にメールで連絡してください。

- ※3月の時点で本学の科目で授業内容がわからない、適切な申請ではない場合については、オリエンテーション後に変更、追加などの申請をすることができます。

- 原則として、高専等の1つの科目の単位数をもって、本学のそれ以上の単位数の科目認定の申請をすることは出来ません。ただし、これは絶対的な基準ではなく、学科・科目によって認定方法に若干の幅がありますので、この原則に外れている場合も入学後担当教員と相談してください。

- 高専等での一科目をもって本学の複数の科目の単位認定を申請することも可能です。逆に、高専等での複数の科目を合わせて、本学の一科目の認定を申請することも可能です。

- 認定の申請を行うにあたり、平成22年度の時間割を参考にしたい編入生は2月現在の案が掲載されておりますのでそちらを参考にしてください。

平成22年度学部時間割 (案) 確認用ページ

<http://kyoumu.office.uec.ac.jp/gakubu/nintei/jikanwari.html>

特別編入学生に対する履修単位の認定基準

特別編入学生の履修単位の認定基準(昼間コース)

区分	認定しうる最高単位数 高専・短大・専修学校・大学												卒業に必要な単位数											
	C	J	E	F	M	T	H	C	J	E	F	M	T	H										
総合文化科目	10												10											
人文・社会科学科目	6												6											
言語文化科目Ⅰ	2												2											
言語文化科目Ⅱ	2												2											
言語文化演習科目	3												3											
健康・スポーツ科学科目	0												6											
上級科目	2												2											
理工系教養科目	26												26											
専門基礎科目	26	26	27	28	30	26	26	26	26	27	28	30	26	26										
学科専門科目	34	34	35	38	38	38	39	66	64	65	68	68	77	70										
共通単位数	2												10											
合計	87	87	89	93	95	91	92	133	131	131	131	131	139	138	137									

注1. Cは情報通信工学科、Jは情報工学科、Eは電子工学科、Fは量子・物質工学科、Mは知能機械工学科、Tはシステム工学科、Hは人間コミュニケーション学科を表す。  
 注2. 卒業に必要な単位の詳細は、学科により異なる。

特別編入学生の履修単位の認定基準(夜間主コース)

区分	認定しうる最高単位数 高専・短大・専修学校・大学												卒業に必要な単位数											
	C	J	E	F	M	T	H	C	J	E	F	M	T	H										
総合文化科目	12												12											
人文・社会科学科目	6												6											
言語文化科目Ⅰ	2												2											
言語文化科目Ⅱ	3												3											
健康・スポーツ科学科目	2												2											
理工系教養科目	26												26											
専門基礎科目	26	26	26	26	25	26	26	26	26	26	26	25	26	26										
専門共通科目	36	34	34	35	35	34	35	68	59	62	62	63	64	62										
学科専門科目	2												12											
共通単位数	2												14											
合計	89	87	87	88	87	87	88	131	124	127	127	127	129	127										

注1. Cは情報通信工学科、Jは情報工学科、Eは電子工学科、Fは量子・物質工学科、Mは知能機械工学科、Tはシステム工学科、Hは人間コミュニケーション学科を表す。  
 注2. 卒業に必要な単位の詳細は、学科により異なる。

## 各学科等別の単位認定方法について

※総合文化科目、専門基礎科目、及び夜間主専門共通科目の項は全学科共通。  
※外国人留学生の外国語科目は、認定になる科目及び単位数がそれ以外の編入学生と異なりますので注意してください。

### 総合文化科目

#### 【人文・社会科学科目】

- ・高専からの編入学生の単位認定に関して、
  1. 高専の1単位は2単位として認定します。
  2. 1～3年次に履修したものは、原則として認定しません。但し、高専でのカリキュラムの進行形態によっては例外的に認定する場合があります。
  3. 1～5年次の国語は認定しません、但し4年次以上の国語特講は内容に応じて認定します。
  4. 総合・社会科学特論・人文科学特論・文化論その他は、内容確認のうえ、対応する科目が本学にあれば認定します。

・短大、大学からの編入学生の単位認定に関しては、本学の相当する科目に認定します。

\*注意) 本学3・4年次で履修すべき上級科目への振替認定は行いません。

#### 【英語】

・高専4・5年次(＝大学1・2年に相当)の成績を対象として、以下の要領で単位認定を行います。

1. 授業延べ時間を本学の授業の時間数と対照したうえで、本学の英語カリキュラムの内容に沿って認定単位数を決定します。授業のシラバスを持参してください。

・授業が週に何回あって、その時間が計何分であるかを書類に明記してください。

※本学の英語必修科目1単位は、週1回90分×1学期15回です。

2. 申請された英語の成績が優・良・可のいずれかであれば、言語文化科目I(6単位)及び言語文化演習科目(2単位)の範囲内で認定します。

・言語文化演習科目は2単位ですが、週1回90分×1学期15回の授業なので同様の時間数の授業1単位と同等であると認定します。

3. 言語文化演習科目について、夜間主コースは共通単位として認定します。
4. 卒業研究での英語論文講読については、受講内容を精査の上、認定の可否を決定します。その際、資料の提出を求めます。

【第二外国語】

※外国人留学生は(外国人留学生)の項に従ってください。

申請単位数、高専等での取得単位数と成績を確認し、単位認定の可否と認定単位数を決定します。言語文化科目Ⅱでは1～3年次で取得した単位も認定の対象とします。また、夜間主コースの学生について、言語文化演習科目は共通単位としてカウントされます。

言語文化科目Ⅱ 2単位  
言語文化演習科目 2単位

(外国人留学生)

日本語

言語文化科目Ⅰ 大学・短大卒業者 6単位  
高専卒業者 6単位(但し4・5年次の日本語)

言語文化演習科目 大学・短大卒業者 2単位  
高専卒業者 2単位(但し4・5年次の日本語)

修得した「日本語」相当科目の成績が優・良・可の何れかであれば、上記の範囲内で認定します。

英語

言語文化科目Ⅱ 大学・短大卒業者 2単位  
高専卒業者 2単位(但し4・5年次の英語)

言語文化演習科目 大学・短大卒業者 2単位  
高専卒業者 2単位(但し4・5年次の英語)

修得した「英語」の成績が優・良・可の何れかであれば、上記の範囲で認定します。英語以外は認定しません。

人文・社会科学科目

日本事情関連科目は日本文化A～Eの認定の対象となり、人文・社会科学科目10単位の中にカウントされます。

## 特別編入生(3年次編入)の単位認定基準(健康・スポーツ科学科目)

### 認定科目

健康・体力づくり実習(1単位), 健康論(1単位), 生涯スポーツ演習A(1単位)

### 認定要件

1. 下記の条件を満たしている場合、健康・体力づくり実習(1単位)の単位を認定する。

- ①高専卒業生  
4年次以降に、大学の45時間(90分授業を22回)に相当する実技科目を履修し、単位を取得していること。
- ②短大卒、大学中退、大学卒業生等  
体育実技1単位を取得していること。

※健康・体力づくり実習については、時間条件を満たしていない場合も特例として認める場合があるの  
で、担当教員と相談すること。

2. 下記の2つの条件を同時に満たしている場合、健康論(1単位)の単位を認定する。

- ①高専卒業生  
a. 4年次以降に、大学の15時間(90分授業を7回)に相当する保健体育講義の単位を取得していること。
- b. 講義内容が主に健康・体力づくりに関連するものであること。
- ②短大卒、大学中退、大学卒業生等  
a. 大学の15時間(90分授業を7回)に相当する保健体育講義の単位を取得していること。  
b. 講義内容が主に健康・体力づくりに関連するものであること。

3. 下記の条件を満たしている場合、生涯スポーツ演習A(1単位)の単位を認定する。

- ①高専卒業生  
a. 5年次以降に、健康体力づくり実習ならびに健康論の単位認定分を差し引いた上で、30時間(90分授業を15回)に相当する実技科目を履修し、単位を取得していること。
- ②短大卒、大学中退、大学卒業生等  
a. 2年次以降に、健康・体力づくり実習の単位認定分を差し引いた上で、30時間(90分授業を15回)に相当する実技科目を履修し、単位を取得していること。

### 必要書類

- ①成績証明書のコピー
- ②1コマの授業時間および授業回数数の証明  
学習要覧のコピーなど、何分授業を何回行ったかが分かるものを提出すること。なお、年度によって時程が異なる場合は、実際に履修した年度分のコピーを提出すること。
- ③認定の対象となる科目のシラバス(実際に履修した年度分)のコピー

※その他、必要に応じて、単位認定の対象となる授業の詳細なレポートを提出してもらい場合がある。



## 数学関連の専門基礎科目の単位認定について

数学関係の専門基礎科目で単位認定の対象となるのは次の7科目で、その内容(キーワード)は下記の通り。

微積分学第一(2単位) 1変数の微積分: 逆三角関数, 微分の計算(合成関数, 逆関数など), 微分の応用(テーラー展開, 極値など), 積分の計算(変数変換, 部分積分), 面積.

微積分学第二(2単位) 多変数の微積分: 偏微分, 多変数関数のテーラー展開・極値, 重積分, 重積分の応用(面積, 体積).

線形代数学第一(2単位) 連立一次方程式の解法(はきだし(消去)法), 行列の演算, 階数, 連立1次方程式の解の理論, 行列式.

線形代数学第二(2単位) ベクトル空間(部分空間, 一次独立, 基底, 次元など), 一次変換(線形写像).

数学演習第一(1単位) 微積分学第一と線形代数学第一の問題演習.

数学演習第二(1単位) 微積分学第二と線形代数学第二の問題演習.

解析学(2単位) 無限級数, 線形常微分方程式.

各科目の詳しい内容が知りたければ, シラバスを参照せよ. 単位認定申請書は, 上記の内容を履修したことがわかるように書くこと.

### 単位認定の方針

- 高専卒業者に対しては線形代数学第二の単位を原則として認定しない.
- 高専を卒業して昼間コースに入学する者は, 該当する科目の内容を高専で履修していれば, 上記の科目のうち履修上必要なすべての科目(線形代数学第二以外)について単位認定願を提出するのが望ましい.
- 高専を卒業して夜間コースに入学する者は, 高専での履修状況と, 自分の能力を判断し, 上記の科目のうち履修上必要な, なるべく多くの科目(線形代数学第二以外)について単位認定願を提出するのが望ましい.
- 大学, 短大等の出身者は対応する科目を出身大学等で履修している場合に限り単位を認定する.

いずれの場合も成績等を総合的に判断の上, 単位を認定する.

### 単位申請に関する注意

- 高専等に対応する科目の単位数が上記の単位数より少ない場合でも, 履修内容, 授業時間数などを考慮の上, 単位の認定をする場合がある.
- 基本的には高専の4~5年次の科目が単位認定の対象であるが, 履修内容が上記の内容に合致していれば, 1~3年次の科目を使って, 申請してよい. 但し, 高専の1~3年次で取得した微積分, 線形の単位は教職の単位として認められない.
- 数学教室が開講している理工系教養科目(現代数学入門 A および B)と上級科目(代数と幾何学, 数理解析学)の単位認定はしない.
- 数学演習については, 対応する演習が講義科目内で十分行われていると認められる場合には, その講義科目で講義と演習の両方を申請することができる.

## 特別編入者の単位認定基準 (物理学関連の専門基礎科目の場合)

平成 21 年度

高専の 4、5 年次、短大、他大学で履修した科目が、本学の物理学関連の専門基礎科目に対応すると判断でき、かつ授業時間が本学の対応科目の時間数以上であるならば、成績が悪い場合を除き、本学の対応科目の単位として認定する。

なお、単位認定に必要な情報が提供されていない場合には、判断不能として認定はしない。

### 補足説明

#### 1. 高専 3 年次履修科目の例外

高専の 1～3 年次は高校に対応すると考えられるので、その間に取得した科目は単位認定の対象にならないが、多くの高専で開講している「応用物理」(高専によっては 3～5 年次のどれか、あるいは複数年次に開講している)は 3 年次で履修していても、単位認定の対象に含める。

#### 2. 授業時間を越えた重複認定はしない

科目によっては物理学関連の基礎科目としても、専門科目としても対応可能な場合がある(例えば「熱工学」など)。授業時間を越えた重複認定は行なわないので、専門科目としても認定された場合には物理学関連基礎科目として単位認定するためには、十分な履修時間が必要となる。なお、ひとつの科目の単位認定を 2ヶ所に申請する場合には、双方の用紙にその旨を明記すること。高専での学生実験についても同様である。

#### 3. 本学の「基礎科学実験 A」に対応する科目

高専の「応用物理」等で然るべき内容の実験をしていると判断できる場合には、「基礎科学実験 A」として単位認定することがある。高専の専門実験である機械工学実験、電気工学実験等も内容を検討し、本学の「基礎科学実験 A」に対応できると判断できる場合には、単位認定する。(ただし専門科目との重複認定には両者の認定に必要な高専での授業時間(単位)が必要である。)

以上の場合、履修科目のシラバスと実験内容のわかるテキストを提出しなければならぬ。なおこれらが用意できない場合には、実際に行った実験題目一覧表(担当の先生の署名捺印入り)および参考資料(実験内容がわかるもの)を提出すること。

化学系科目についての平成22年度特別編入学者の単位認定方針

1) 高等専門学校(高専)の4、5年次または大学(含む短大)などの大学の1、2年次(またはそれ以上)に相当する年次で履修した科目の認定をします。原則、高校またはそれに相当する高専の1～3年次での履修については認定しません<sup>注1)</sup>。

2) 1)の科目は本学の専門科目としても認定されることがありますが、それは申請者、専門学科、および共通教育部門(化学)で相談しどちらか一方の科目として認定します。

3) 認定される科目は以下のとおりです。

履修した科目または内容	単位数 <sup>注2)</sup>	認定される科目
構造化学 <sup>注3)</sup>	2単位以上	化学概論 (Aコース)
原子の構造とスペクトル、分子の結合と構造など		化学結合と構造 (Bコース)
化学熱力学	2単位以上	化学平衡論 (A)
化学熱力学に加え、環境・エネルギー変換の化学		化学とエネルギー (A) 物質とエネルギー (B)
有機材料や無機材料の化学	2単位以上	材料化学 (A) 物質化学 (B)

化学実験<sup>注4)</sup> 2単位以上 基礎科学実験B (A, B)  
 (主として物理化学実験)  
 定性分析、吸光分析、コロイド  
 アスピリン合成、カフエイン抽出、  
 赤外・紫外吸収スペクトル、分子量、  
 pH滴定、反応速度、電池、計算化学

注1) 基礎科学実験Bについては1～3年次での履修について認定することがあります。

注2) 高専または他大学での単位数が上記に満たなくても、実質的に匹敵する時間を履修していれば認定します。

注3) 半導体工学などで、導入のために行う1～2時間の原子構造論などは認定できません。

注4) 授業中に行った演示実験は認定しません。

## 【情報】

コンピュータリテラシー（2単位）と、基礎プログラミングおよび演習（2単位）については、本学入学前に修得した授業科目の講義内容と照らし合わせて認定します。

コンピュータリテラシーでは、コンピュータを学習や研究の道具として使いこなせることを目標に、コンピュータシステムやオペレーティングシステムの基本事項、電子メールやWebページなどによる情報の収集・発信、コンピュータネットワークなどについて学んでいます。また、基礎プログラミングでは、プログラムがどのように作られているか知るために、プログラミング手法の基礎を学んでいます。

学科により多少内容が異なりますので、詳しくは編入先学科の平成20年度入学生用のシラバスのページを参考にしてください。

以下、スケジュールを示します。4月6日の「単位認定希望調査書」の教務課への提出を忘れないように注意してください。

コンピュータリテラシー（2単位）と、基礎プログラミングおよび演習（2単位）については、本学入学前に修得した授業科目の講義内容と照らし合わせて認定します。

コンピュータリテラシーでは、コンピュータを学習や研究の道具として使いこなせることを目標に、コンピュータシステムやオペレーティングシステムの基本事項、電子メールやWebページなどによる情報の収集・発信、コンピュータネットワークなどについて学んでいます。また、基礎プログラミングでは、プログラムがどのように作られているか知るために、プログラミング手法の基礎を学んでいます。

学科により多少内容が異なりますので、詳しくは編入先学科の平成20年度入学生用のシラバスを参考にしてください。

情報通信工学科の専門科目の単位認定の申請にあたっての注意事項  
(昼間・夜間主コース共通)

2008年2月20日版

1章．単位認定制度とは

編入後2年間で卒業に必要な単位を修得できるように、高専で履修した科目の単位のうち、内容がほぼ一致する科目の単位を本学の単位として計算に入れる制度です。

この文書は、情報通信工学科（以下、「C学科」と書きます）の専門科目の認定について、方針と手続を述べたものです。

2章．昨年度の注意事項との変更点

3章に「基礎セミナー」について記載しました。

3章．単位認定の原則（ただし専門科目について）

- A. 認定対象科目は高専の単位と同一単位数（もしくはそれ以下の単位数）の本学の科目です。例えば、高専の2単位科目を本学の4単位科目と対応させることはできません。ただし、講義の総時間とそれに対応する単位数の関係は、学校ごと、あるいは、科目によって多少異なることもあります。大学での講義時間の合計に見合うだけの授業時間があるならば、この原則に拘束されない認定を行なうこともあります。詳しくは、入学オリエンテーションの日（4月）の面接の際に相談して下さい。
- B. 高専での複数科目を本学の1科目に対応させることができます。例えば、高専の2単位の科目2つを、本学の4単位科目と対応させることができます。
- C. 高専での1科目を本学の複数科目に対応させることは、原則としてはできません。ただし、高専の1科目の単位数が本学の複数科目の単位数和に比較して等しいか、より大きい場合であって、しかも講義内容が同一とみなせる場合には、対応できることがあります。
- D. 本学の3年生、4年生用の科目は、原則として認定しません。ただし、昼間コースについては、「回路・システム学第三」、「電子回路学」、「制御工学」、「計測工学」、の4科目、夜間主コースについては、「論理回路」、「論理回路学演習」、「電子回路学」、「制御工学」の4科目、については3年生の科目ですが、認定可能とします。
- E. 本学の3年生、4年生用の科目は、原則として認定しませんが、これを貫くと時間割構成がどうしても困難になるときは、認定することがあります。

F. 本学1年生の基礎セミナーは、専門の導入的内容についてのセミナー形式の科目です。類似した科目を高専で履修していれば認定可能です。科目名が異なってもかまいません。

#### 4章 「特別編入生単位認定願（授業内容）」用紙の書き方（ただし専門科目について）

A. まず、本学の「総合文化科目」「専門基礎科目」に優先的に対応させて下さい。

B. 次に、残ったものをC学科の「専門科目」に対応させますが、以下の優先順位に従って行なって下さい。必修科目を優先させる理由は、編入学後に必修科目を受講する時、間割構成の上で困難を伴うことが多いからです。

(1) 必修科目（ただし、卒業研究、情報通信工学実験A、B、情報

通信工学演習、および輪講、を除く）

(2) 1～2年生用の選択科目

(3) 3～4年生用の選択科目（認定を受けなければ時間割構成が困難な時のみ）

(4) 情報通信工学実験A、B（認定を受けなければ時間割構成が困難な時のみ）

C. 用紙には、学修要覧の授業科目一覧表に掲載されている順番に科目を並べて下さい。

必修科目（ただし、卒業研究、情報通信工学実験A、B、情報通信工学演習、および輪講、を除く）については、対応する高専の科目がない（認定を願わない）場合にもつめずに記述し、科目名のみを書いて下さい。これは、必修科目の認定を願っていないことを見やすくするためです。選択科目については、申請しない科目を記述せず、つめて書いて下さい。

D. 専門科目と年次の関係については、学修要覧を参照して下さい。

E. 認定しうる専門単位数には上限があります。専門科目の上限は34単位ですが、科目共通の区分にある上限2単位の認定を専門科目から得ようとする場合には36単位となります。いづれにしても、認定されない対応が生じると上限以下になってしまいますので、認定願を最初に提出するときには、上限を越えて申請してかまいません。F. 情報通信工学演習、輪講、および卒業研究については、どのような場合も単位認定できません。

G. 各項目の書き方。

認定希望授業科目：

大学の講義名を書いて下さい。（正式な科目名は学修要覧を参照して下さい）高専での複数科目を本学の1科目に対応させる場合には、高専での2科目からは、この欄には矢印「↑」を書いて下さい。本学1～2年次の必修科目については、申請しない場合でも、この欄だけは記述して下さい。

他に認定を希望している科目がある場合の科目名：

「総合文化科目」あるいは「専門基礎科目」に対応させた高専の科目を、

C学科の「専門科目」にも対応させる場合には、重複して申請している「総合文

化科目」あるいは「専門基礎科目」の科目名を記入して下さい。この場合、「総合文化科目」あるいは「専門基礎科目」で認定された場合には、「専門科目」の認定は自動的に取り消されることとなります。

高専のひとつの科目を、2つ以上の「専門科目」に対応させる場合には、その両方の専門科目の項に、お互いの専門科目名を書いて下さい。この場合、両方認められる場合もありますし、単位数の制限によっては、入学オリエンテーションの日の面接の際に1つの「専門科目」に絞ることになるかもしれません。

出身校の授業：

高専での講義名を書いて下さい。

単位：

高専での単位数を書いて下さい。

時間：

高専での授業時間の合計を書いて下さい。例えば、1回50分の授業が週2回で15週あったならば、 $50 \times 2 \times 15 \div 60 = 25$  ですから25時間と書いて下さい。

授業内容：

なるべく詳しく書いて下さい。授業内容欄を上下2行以上に分割して書き、1行目には、教科書名を「かぎかっこ」でくくって記入して下さい。また教科書を用いない場合には、「教官の作ったプリント」などと書いて下さい。2行目以降には、その講義の内容をあらわすキーワードを書くか、文章で内容を説明して下さい。

例 山田太郎著「デジタル信号処理の基礎」

フーリエ変換, z変換, デジタルフィルタの設計, スペクトル推定.

例 「教官の作ったプリントによる講義と演習」

C言語についての講義と, C言語によるプログラム演習 (ソーティングと連立一次方程式の解を求める). UNIXについても実習した.

## 5章 面接

- A. 入学オリエンテーションの日の午後第1回目の面接を行ない、「専門科目」の認定作業を開始します。ここで個別の質問にお答えします。また、その日以降にも数回の面接を行います。
- B. 上の説明の3章E項を適用するか否かを判断するために、皆さんの時間割構成を見せてもらった上で、認定作業を行います。

<http://kyoumu.office.uec.ac.jp/gakubu/mintei/jikanwari.html>

に、ほぼ確定した時間割が掲載されていますので、事前に調べて、仮の時間割案を作っておくようお願いいたします。

C. 「総合文化科目」と「専門基礎科目」の認定作業は、面接前に終了している予定ですので、これらの科目で認定されなかった高専の科目で「専門科目」に対応可能なものは、その場で申し出て下さい。

## 6章. その他

授業内容については、

<https://info.office.uec.ac.jp/jsp/nrm/sir/index.jsp>

にシラバスがありますので、そちらも参照して下さい。

## 7章. 最後に

C学科では、編入生であるみなさんが有意義な2年間を過ごせることを最優先に単位認定作業を行いたいと考えています。あまりに形式的な認定をしたために、皆さんが本当に受講したい講義が聞けなくなったり、興味のない講義を聴かざるを得なくなったりしたら、それは非常に不幸なことです。

従って、入学オリエンテーションの日の午後の面接では、みなさんが今後そのような勉強をしたいのか、どういった道に進みたいのかも聞きたくうえで、マンツーマンでアドバイスを行います。ルールの許す範囲で、なるべく柔軟に認定をしたいと考えています。

たとえば、A、Bという高専の科目があつたとして、それぞれが本学のC、Dに対応したとしましょう。内容や単位数の条件からみて、CもDも認定するに十分だったとしましょう。しかし、認定単位数の上限が、昼間コースでは34単位夜間主コースでは36単位であるために、CかDのどちらかの申請を取り下げなければならぬ。こういう状況はよく生じます。さて、どちらを取り下げた方がいいでしょうか。

もし、諸君がCはすでにマスターしていて、Dは若干不得意だが今後進む専門にも関係が深いならば、迷わずDの申請を取り下げて、Dをもう一度大学で学ぶべきでしょう。もちろん、Cをもう一度とりなおしたほうがDをとりなおすより試験にパスする確率は高いかもしれませんが、楽かもしれません。しかし、Dを取り下げたほうが諸君の将来のためであることは理解して頂けると思えます。入学オリエンテーションの日の面接ではこういう視点も含めて相談に応じます。したがって、この面接にはとても時間がかかります。事前にみなさんに作成して



頂く「特別編入生単位認定願」に不備があると相談の作業が円滑に進みません。「特別編入生単位認定願」の作成はとも手間のかかる作業ですが、本手引きを何度も熟読し、記載内容や方式にミスがないか、提出前によく確認しておくようお願いします。

## 情報工学科の専門科目の単位認定の申請にあたっての注意事項

4月初めの特別編入学生の入学オリエンテーション時に、単位認定の担当教員が面談を行い、認定作業を行う。

## 単位認定申請にあたっての注意事項

### 昼間コース、夜間主コースに共通の事項

- ・高専等での複数科目を本学科の1科目に対応させることができる。また、高専等での1科目を本学科の複数科目に対応させることは、高専等での授業時間、内容等によっては、可能な場合もある。
- ・授業時間の不足は、必ずしも認定否の決定的要因とはせず、内容の同等性、成績等を考慮して決定する。また逆に、複数の科目を合わせて本学の1つの科目として申請した場合でも、授業時間が多いからという理由のみで認定することはない。
- ・認定できる専門科目の単位数には上限があるが、希望通りに認定されることは限らないので、上限を超えて申請してもよい。当初過少な申請をしたために、最終的に認定可能な単位が見落とされたりすることもありうる。よって、そのようなことの無いよう、記入にあたっては熟慮の上、適切な申請を心がけること。
- ・情報系以外、たとえば電気系、制御系などの高専の学科からの特別編入生の場合、カリキュラムの相違により、専門科目の認定単位数が少なくなりがちである。複数科目を合わせて一つの科目として申請することも検討すること。

### 昼間コース

- ・まず、「総合文化科目」「専門基礎科目」に優先的に対応させ、残ったものを、情報工学科の「学科専門科目」に対応させること。その際、以下の優先順位に従うこと。

- (1) 2年次までの必修科目
- (2) 2年次までの選択科目
- (3) 3年次以降の科目

ただし「学科専門科目」から認定しうる最高単位数は34単位とする。

- ・3年次以降の実験科目 (情報工学実験第一、第二A、第二B、第三)、輪講、卒業研究は、認定しない。

・選択科目の認定科目数の上限は、8科目とする。ただし、2年次までの必修科目の認定が少ない場合には、負担の軽減を考慮して、8科目を超えて認定することもある。

- ・「基礎セミナー」は、高専編入生の場合は「卒業研究」で申請することが可能である。高専以外の編入生の場合は、別途相談の上、申請をすること。

#### 夜間主コース

・まず、「総合文化科目」「専門基礎科目」に優先的に対応させ、残ったものを、情報工学科の「専門共通科目」と「学科専門科目」に対応させること。その際、以下の優先順位に従うこと。

- (1) 2年次までの専門共通科目の必修科目と学科専門科目の必修科目
- (2) 2年次までの専門共通科目の選択必修科目
- (3) 3年次以降の専門共通科目の必修科目・選択必修科目と学科専門科目

ただし「専門共通科目」と「学科専門科目」から認定しうる最高単位数は34単位とする。

- ・3年次以降の実験科目 (情報工学実験第一、第二、第三)、輪講、卒業研究は、認定しない。

## 【電子工学科】

### 専門科目の単位認定手順

1. 本学電子工学科への3年次特別編入者に対する学科専門科目の履修単位認定は、基本的に4月初めに行われる特別編入学オリエンテーションの際に、学生との面談のうえで行います。都合の悪い場合には、オリエンテーションの際に面談日を別の日に定めます。
2. 面談においては、認定を受けたい授業内容と達成度を判断しますので、各学生は、高等専門学校、短期大学あるいは大学において修得し、認定を受けたい専門科目の説明ができるようしておいて下さい。
3. 認定できる単位数(専門科目数)には上限があるので、申請通りに認定されることは限りません。なお、原則として、必須科目の電子工学基礎ゼミナール(1年生前学期科目)は単位認定されませんので、その開講時間に注意して下さい。

## 【量子・物質工学科】

### 1. 単位認定の趣旨

今後2年間で卒業所要単位を満たすためには、高専で修得した単位を考慮しない限り、たとえ皆さんのように優秀であっても時間的に無理がある。そこで、原則として高専4・5年次で履修した科目の内に本学科で開講している科目と同等であると見なせるものがあれば、学科専門科目の単位数として計上する。

### 2. 科目区分についての注意

平成20年度入学正規生用の学習要覧に準拠して認定する。原則として、低学年で履修する科目から優先的に認定するので、学科専門科目は最後になる。なお、○○物理や○○化学のような量子・物質工学科の専門科目にありそうな科目が総合文化科目や専門基礎科目にも含まれている。

### 3. 申請書類記入上の注意

- 1) 高専での単位数と認定単位数の換算は1:1とする。
  - 2) 認定しうる専門科目に上限があるが、申請通りに認定されるとは限らないので、限度を越えて申請しても良い。
  - 3) 高専での複数科目で大学の1科目を対応づけが可能となる場合がある。
  - 4) 高専で取得した科目で1科目が4単位や6単位など大きな単位となっている場合、これらを本学において細分して複数の単位数として認定できる場合がある。それらの科目区分が異なる場合は混乱を招きやすいので特に注意すること。
  - 5) 授業で用いた教科書、およびキーワードを記入すること。
  - 6) 科目認定の作業において異なった申請の仕方が良いと判断される場合は、申請書の書き直しを求めることをあらかじめ心得ておくこと。
- ### 4. 専門科目認定作業について
- 1) 編入学ガイダンス当日に面接を行ない、その場で専門科目の認定作業を行なう。共通科目の立場からは認定されなかった科目があれば、認定作業の場で申し出ること。
  - 2) 高専での授業内容の説明を聞いた上で適当な認定科目を決定する。
  - 3) 履修困難な科目（障止科目や同じ時間に開講される科目）や必修科目を優先して認定する。

## 【知能機械工学科】

### 学科専門科目単位認定手順

1. 本学科の学科専門科目に対応する科目に対して、本学科における単位数と、編入者の取得した当該科目の取得年次、単位数と授業時間数および成績などを勘案して認定の可否を決める。
2. 学科専門科目の中で、先ず必修科目、次に選択必修科目、最後に選択科目の順に認定対象を広げ、学科専門科目で認定しうる総単位数（別紙の特別編入学生に対する履修単位の認定基準を参照のこと）を限度として順次認定していく。
3. 取得した単位数と認定単位数との単位の換算は 1:1 とする。なお、超過部分の単位数は切り捨てる。  
(例) 在籍した学校で取得した材料力学が 6 単位であったとする。本学科での取り扱い  
は、3 単位を「材料力学第一および演習（3 単位、選択必修科目）、残り 3 単位  
の中で、2 単位を「材料力学第二（2 単位、選択科目）」として認定する。最後に残  
った 1 単位は切り捨てる。
4. 入学式&オリエンテーション終了後に、面接を行います。その時に、シラバスを持参し  
てください(単位認定を申請する学科専門科目だけでなく履修した全ての科目シラバスを  
用意してください)。

## システム工学科の「専門科目」単位認定について

1. 単位認定制度とは  
編入後 2 年間で卒業に必要な単位を修得できるよう、原則として高専等での履修科目のうち、本学で開講している科目と同一の内容とみなせるならば、それらについては既に履修が済んでいるものとみなし、電気通信大学で履修した単位と認定する制度です。
2. 単位認定の原則（「専門科目」について）
  - 1) 認定の対象である「専門科目」とは、専門科目の分類から「専門基礎科目」を除いたものを指します。従って、夜間主コースにおいては「専門共通科目」も含まれます。
  - 2) 認定対象の科目は高専等の科目と同一単位数（もしくはそれ以下の単位数）の本学科の開講科目です。ただし、講義の総時間数と単位数の関係は、学校ごと、あるいは、科目によって多少ことなることがありますので、この原則に拘束されない認定を行うこともあります。
  - 3) 高専等での複数科目を本学科の 1 科目に対応させることができます。
  - 4) 高専等の 1 科目を本学科の複数科目の単位数和より多くて内容が同一とみなせる場合には、対応できることがあります。
3. 単位認定申請にあたっての注意事項
  - 1) まず、「総合文化科目」「専門基礎科目」に優先的に対応させてください。
  - 2) 次に、残ったものを「専門科目」に対応させますが、以下の優先順位に従って対応させてください。これは、編入後に 2 年次までの科目を受講することは、時間割の上で困難を伴うことが多いからです。
    - i) 2 年次までの必修科目および選択必修科目
    - ii) 選択必修科目
    - iii) 選択科目
  - 3) システム数理 A は上級の線形代数学、同 B は上級の幾何学、解析学に対応していますので、高専等でこれらの科目を履修済みであれば認定を申請して下さい。
  - 4) システム工学実験第一、同第二は単位認定できません。ただし、高専等における実験科目の内容によっては認定を行うこともあります
  - 5) システム工学実験第三および卒業研究は単位認定できません。
4. その他の注意事項
  - 1) 認定しうる「専門科目」単位数の上限である 38 単位（昼間コース）または 34 単位（夜間主コース）に近い単位数が認定されないと、2 年間で卒業が困難になる可能性がありますので、申請に際しては上限を超えて申請しても構いません。上限以上の単位数の科目を認定された場合には、超過分を「科目共通」の単位数に当てることができます。
  - 2) システム工学科と高専等とのカリキュラムは、あまり整合しておりません。従って、内容によっては高専等での複数科目を本学科の 1 科目に対応させることを検討して下さい。
  - 3) 認定作業は、編入学ガイダンス当日、担当教員と個人面接の形で進めます。その際、基礎資料となるのが「特別編入生単位認定額（授業内容）」ですが、例年、記載に不備なものが多く、認定作業に長時間要します。認定漏れなども起こりかねませんので、しっかりと書類を作成して下さい。
  - 4) 面接のとき高専等での授業内容を説明してもらいますので、シラバスなどの資料を必ず持参して下さい。

5) 平成 18 年度入学正規生用の学修要覧に準拠して認定します。「専門科目」の授業内容については、平成 18 年度(2006 年度)入学生用のシラバスを参考にして下さい。1 年次の科目は開講年度が平成 18 年度、2 年次については開講年度が平成 19 年度、のシラバスです。申請の際には、参考にする開講年度に、十分に注意して下さい。



## 【人間コミュニケーション学科】

1. 単位認定制度について  
大学や高専（主として4・5年次）などの履修科目のうち、本学で開講している科目と同一とみなせるものがあれば、これを本学の単位として認定し、卒業に必要な単位数の計算に組み込むのが、単位認定制度である。
2. 単位の認定作業について  
4月初めの特別編入学生の入学オリエンテーション時に、単位認定担当教員が面談をおこない、高専等での授業内容や達成度を確認したうえで認定作業をおこなう。  
とくに人間コミュニケーション学科では、開講専門科目が多岐にわたるので、高専などでの履修科目のどれが専門科目のどれに対応するかなど、詳細についてはこの面談で検討する。
3. 単位認定申請にあたっての注意事項（専門科目について）
  - 1) 認定できる専門科目の単位数には上限があるが、希望通り認定されるとは限らないので、その上限を超えて申請してもよい。逆に当初の申請が少なすぎて、認定される科目が見落とされることがあるので、十分に留意すること。
  - 2) 高専等での複数科目が本学の1科目に対応することもあるので、そのように記入してもよい。

